

ロシア・ハバロフスク訪問

場所：ハバロフスク鉄道臨床病院

期間：2019年7月16日～7月18日

ハバロフスク臨床鉄道病院訪問

このたび、ロシア・ハバロフスクにあるハバロフスク鉄道臨床病院に日本式の検診事業を導入する事業が開始することになり、遠隔カンファレンスシステムを用いた診断、医師教育で支援を行う当院と亀田総合病院で同院を視察することになった。

7月17日の午前中に同院を訪れ、まずは会議室にて簡単な挨拶と先方の病院から事業概要について説明があった。ロシアには検診事業がないと聞いていたが実際には予防医療が国民保険診療に組み込まれているなど、予防という観点では日本よりも進んでいる印象を受けた。ただし、その検査内容が非常に限られていること、効率が非常に悪いことが大きな問題であることが理解できた。引き続き、私が九大病院の概要と遠隔医療教育について説明し、その後に当院公衆衛生学の二宮教授より健康維持のための検診の意義について講演が行われた。出席していたロシア人医師たちは改めて検診の重要性を理解すると同時に、遠隔医療教育の有用性についても認識したようであった。

会議のあとは病院ツアーを行い、婦人科や外来手術室のほか内視鏡室も見学した。全体的に施設、機材ともに古いが大事に使用しているのが伝わるような状態であったが、医療機器は日進月歩であることから医療レベルの向上のためにはもっと新しい機器を利用する必要があることが痛切に感じられた。

午後からは再び会議室に集まり、これから開始する検診事業においてディスカッションを行い、遠隔システムを用いて日本にしてほしいこと、期待することなどを知ることができた。

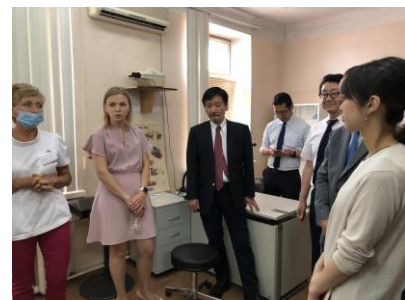
今回の訪問を通じて、同院における検診事業は主に鉄道病院で働く人のための就労支援であり、日本で一般的に考えられているような人間ドック的な検診事業とは異なっており、一般市民に日本式の検診事業を理解させるには相当な努力と積極的な啓蒙活動が必要であることが理解できた。



九大からの講演



検診棟の前で



婦人科検診の説明をうける